グリーンレポート

活き活き　安全安心　まちづくり　N05

発行　活緑クラブ

南丹市議会議員

八木　眞　高橋芳治
矢野康弘　藤井日出夫
川勝儀昭　松尾武治

巨額投資でまちは甦るのか

市長は、議会でにぎわいを取り戻すのは大変きびしいと答えた

事業費総額４２億１千万円（内　補償費３６億７千万円）

内林・横田地区の事業と異なり本町区画整理事業は、地域の負担が少ない南丹市の直営事業で、街路事業による用地・物件補償がおもな財源となっている。

園部町本町地区は、平成１４年から、市街地再開発事業としてプランを練ってきた。土地の集約再編で有効利用をはかり、地域資源を活用しながら全般への波及効果を高める。

施行前には、１５戸あった店舗以外の専用住居が７戸となり、若年層の流出による高齢化が顕著にあらわれている。市有地を活用した地域活性化策となる施策の建物について、まちなかにぎわい対策事業協議会との連携で検討している。

平成１８年度南丹市の決算課題

（単位　百万円）

項　目	歳入総額	歳出総額	歳入歳出差引額	翌年度繰越財源	前年度実質収支	単年度収支
一般会計	24,400	23,482	917	259	440	217
8特別会計	16,025	15,620	405	23	268	114
計	40,425	39,102	1,322	282	708	331

監査委員による審査意見書（抜粋）

南丹市の財政は、弾力性を失い、財政の健全性を脅かす非常に厳しい状況である。中長期の財政見通しを作成するなかで、経常的収入の確保、経常的経費の見直し及び削減をより一層努める必要がある。

普通会計ベースの財政構造の残力性を示す経常収支比率は、前年度より2.1ポイント増の92.4%。財政の硬直化の指標である公債費比率は前年度と同率の17.1%。財政の健全度を示す実質公債費比率は前年度より1.2ポイント増加し17.0%と高い水準である。

監査委員からの指摘事項があった。

① 本年度の補助金に、補助対象として疑問を持つ事例があった。
（改善内容　補助金の一部返還）

② 基金運用の一部に、積立、取り崩しについて、条例に則した運用がされていないものが見受けられた。
（改善内容　９月議会で条例の改正により一部改善）

③ 市税、市債現在高等の前年度決算報告数値の訂正や計算書の計上科目に不適切な事例が見受けられた。（改善内容　修正）

監査委員の指摘事項は、決算特別委員会、総務分科会、産業建設分科会、厚生分科会で所管の確認と詳細な説明を求め審査した。

問われる事業主体

南丹市の直営事業

本町区画整理事業は、街路事業の導入による補償金が主な財源（約87%）となっている。

一般の区画整理事業で見られる、事業により利益を受ける個人からの用地提供（減歩）は行われていない。

地権者による組合事業

内林・八木駅西・吉富駅西地区ともに組合を事業者として、個人用地の減歩が主な財源となり、南丹市の負担は少ない。保留地処分等に関わる市の支援がもとめられる。

使われない５千万円の助成金

川 勝 儀 昭 議員

旧園部町から移管された「女性の館」に対する５千万円の助成金「財団法人南丹市園部国際学園都市センター」で使われずに留保されている。

議員の一般質問の答弁で『５千万円は女性の館管理運営に必要な財源であり、財団法人南丹市園部国際学園都市センター・「女性の館運営委員会」と協議をしている。市役所の担当部局を通じて協議の中に入っていきたい』と言われてた。

平成１７年度決算委員会でも同様の質問があり、適切に執行されたと答弁された。しかし、平成１８年度「財団法人南丹市園部国際学園都市センター」の決算書にも預かり金として計上されている。

２年間も留保される助成金は、早期の返還が適切である。

総務分科会の審査経過

監査委員会事務局を所管する分科会として、指摘事項の確認を行った。▪

産業・建設分科会の審査経過

基金積立の指摘について詳細な説明が求められた。法律で認められている事項であるが、条例には示されていない事項であり、条例の改正をした。

補助金に関わっては監査委員の指摘のように、効率的な実施と採算性が求められた。

厚生分科会の審査経過

指摘事項との関わりを確認した。

監査委員の指摘事項は、厚生分科会に関わる事項ではないと説明があった。

18年度決算総括質疑

活緑クラブ　代表　八木 眞 議員

佐々木市政、初の通年決算は非常に厳しい決算となっている。

本町土地区画整理事業などの事業見直しが課題

一般、特別会計の借金　666億円
財政調整基金繰入金　7億
年 間 決 算　244億（一般）
経常収支比率　92.4%
公債費 比率　17.1%

この数字をみると他の自治体以上の大変厳しい財政事情であるといえる。どこに責任があるのか市長にお尋ねする。

少子高齢化、人口の減少、小規模地元企業の衰退、このような周辺事情を理解しながら、策定時期に入っている20年度予算が立てられるのか心配である。

予算提案権は市長のみであり、その責任は重大と考える。

この2年間、世界をはじめ日本の状況は大きく変わった。日本のあらゆる分野での合理化、改革がすすみ景気回復が進みはじめた。

世界のグローバリズムも日本への投資が有効であることを認識し景気回復の大きな後押しが実現した。

未だ改革の進まない団体（地方自治体含む）はどんどん取り残されていくことが目に見えている。

今、南丹市も無理や無駄を省くのはもちろんのこと、漫然と継続事業を進めるのではなく、たとえば「中心市街地の区画整理事業」を大胆に変更しなければならない。また民間活力を導入することで公的団体、3セクの活性化を促し経営の合理化を進める必要がある。

導入された指定管理者制度には、あいも変わらず大幅な補助金が導入されているのが実情である。努力して黒字になった事業には、補助金は必要ないと考える。

黒字団体の補助金は削除し、模範となる運営をおこない、他の団体もそれを見習うべきである。

次に改革と称して、庁舎内の組織変更が行われ400人近い職員が本庁に集められた。

3部を7部に増やし、課も増やされがこれのどこが改革か？

おかげで各支所は閑古鳥がないている。この施策が格差拡大を助長している。

市長の改革への気概と、強固な理念を活かした実行力で職員も付いてくる。

自治体の改革で、市民も希望が抱け、明るい社会が作られると思う。以上のことが**「市民に希望を」**をあたえ、おのずから行政と市民の**「協働」**が始まると考えるが市長の見解を問う。

示された財政規模

藤 井 日出夫 議員

１８年度決算は、２３０億円を超える財政規模になっているが、２１０億円から２１５億円程度の予算規模が本来の姿と考えている。

財政規模については、一般質問で取り上げられてきたが、市長の答弁でも触れられなかった。基金の枯渇が現実となったいま、ようやく規模に触れられはじめた。

継続事業の見直しや、一時中止を含め大胆な施策の転換が必要である。

多額の補償金が必要な、本町区画整理事業に関連する街路事業は、人の動き、通行車両等の将来見通しに沿った見直しが必要である。

国道九号線 観音峠の改善を

矢野康弘議員

国道九号は南丹市と山陰地方を結ぶ大動脈である。そこに観音峠という交通の難所がある。冬期は凍結や積雪に悩み、曲がりくねった道路は交通事故や渋滞を起こし、排気ガスをまき散らしながら1日に2万台以上もの自動車が通行している。これをトンネル化するよう国交省へ要望していただきたい。

観音峠の園部町側の産業廃棄物の最終処分場あたりから、京丹波町新水戸の称安禅寺付近まで直線でトンネル化すれば約2㎞で峠を登らずに京丹波町へ抜けられる。所要時間も約二分程度で通過できる。京都縦貫道もあるが有料であり使いにくい。国道九号は国の直轄道であり、南丹市には経費の負担はない。

「市長」今後の課題と考える。道路の重要性を再認識する中で道路財源の確保に努力する。

園部町上木崎町の中央道路の改修

この道路は生活道路であり大切な道路である。旧園部町では重要な道路と位置付け側溝の改修を一部実施したが、まだ、自動車の離合ができない所や消防車や救急車などが入りにくい所がある。住民の安心安全の町づくりを考えるとき、早急に改修されたい。

「市長」一定の整備は完了した。色々な課題があるが、こうした要望もあり、今後検討したい。

河川の改修を

陣田川と山田川の合流点付近が未改修である。早急に改修されたい。

「市長」私も改修が必要な箇所と考えている。府にも要望し連携していく。

放置された産業廃棄物

高 橋 芳 治 議員

平成１８年１２月２７日から、カンポリサイクルプラザ（株）の焼却炉は、京都府の停止命令で停止されている。

この間に、未処理の廃棄物が工場内に堆積されていたことが原因と思われる悪臭よる被害が周辺集落に発生したので、議会では、原因究明と改善を担当課に強く求めた。

三者協定による監視体制の強化と協定そのものの不備を指摘したが、岸上副市長は、協定の見直しは考えていないと議会で答弁した。

南丹市の外環状線と胡麻駅までの複線化で市域の一体感を

松尾武治議員

市域の都市計画が進められているが、６１６平方キロの広大な南丹市の創造には、周辺部に光がとどく交通網の整備と観光産業の振興がポイントと考える。

美山町・日吉町には、豊かな自然を生かした観光産業の可能性を秘めている。また、南丹市の一体感の構築に欠かせられないのが、府道京都日吉美山線で、南丹市の外環状線を構築する重要路線と言える。

JR嵯峨野線は園部駅までとなっているが、その複線化事業には莫大な市民の税金を投入している。同じ市域にありながら、園部以西の胡麻駅までは、JR支社が異なり、JRの対応にも差異がある。胡麻駅までの複線化で「美山町・日吉町がともに輝く」施策の導入が、一体感を構築するまちづくりの課題となる。

周辺部の整備には公的資金の導入が必要であり、市域の中心整備は民間活力による整備が求められる。

園部町では既に民間の活力と施策の導入で人の流れは外環状線周辺に創られ、園部町の町並みは変わった。本町地区の賑わいづくりに公的資金の導入は違和感があり、民間活力を活かした賑わいづくりが「人の流れを創るまちづくり」になると考える。

編集後記

市町村は、市民が選ぶ市長と、同じく市民が選ぶ議員による2院制がとられています。

地方分権により市長には、多くの権限が移譲されますので、議会の監視機能が従来以上に求められます。

議会の活性化に向けた動きが各地の市議会で行われます。活性化にむけた行動を起こさなければ、議会の存在が問われることになります。

グリーンレポートを通して議会の様子をお伝え致しますので、ご支援とご指導をお願いします